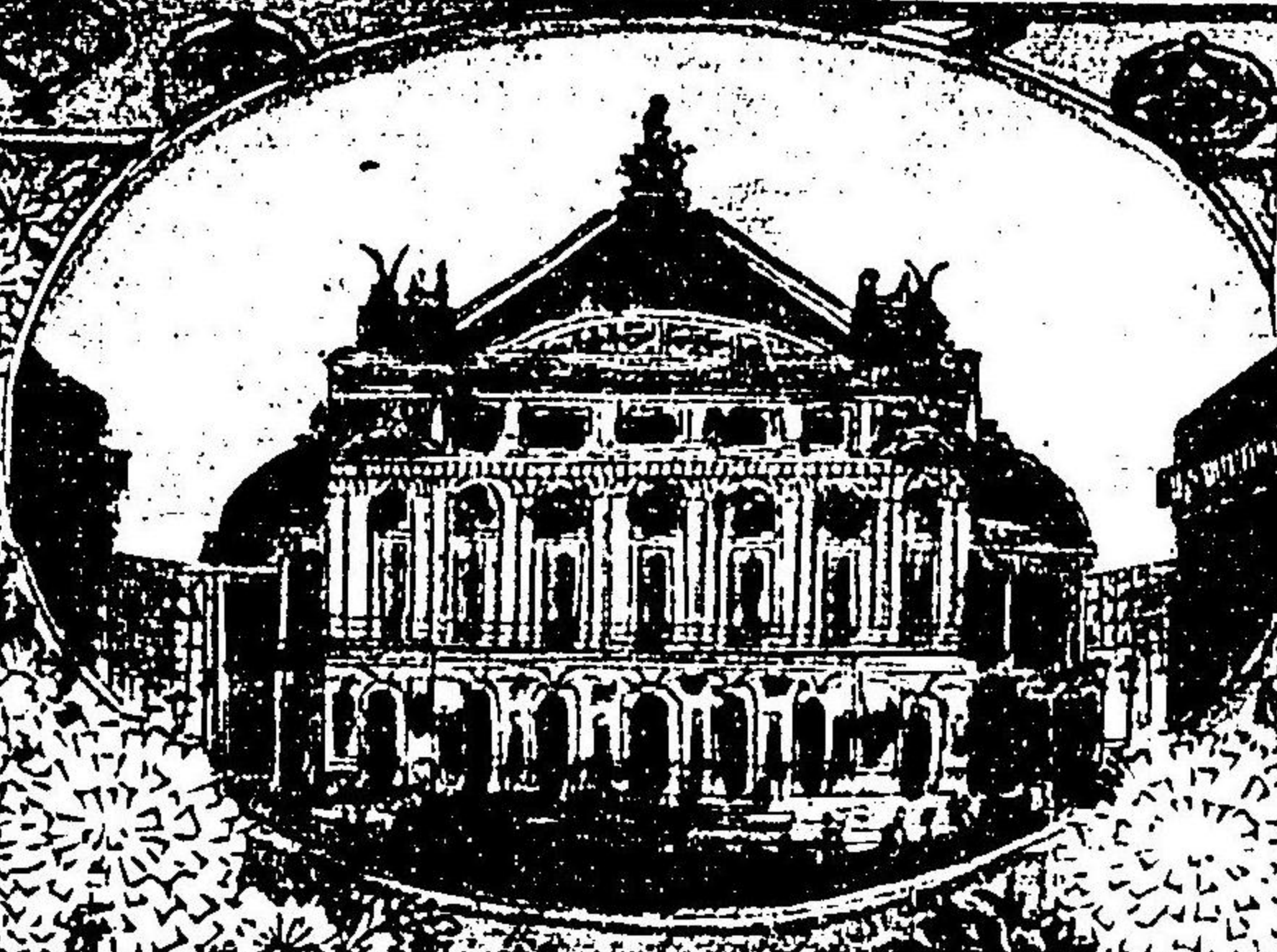


413

553



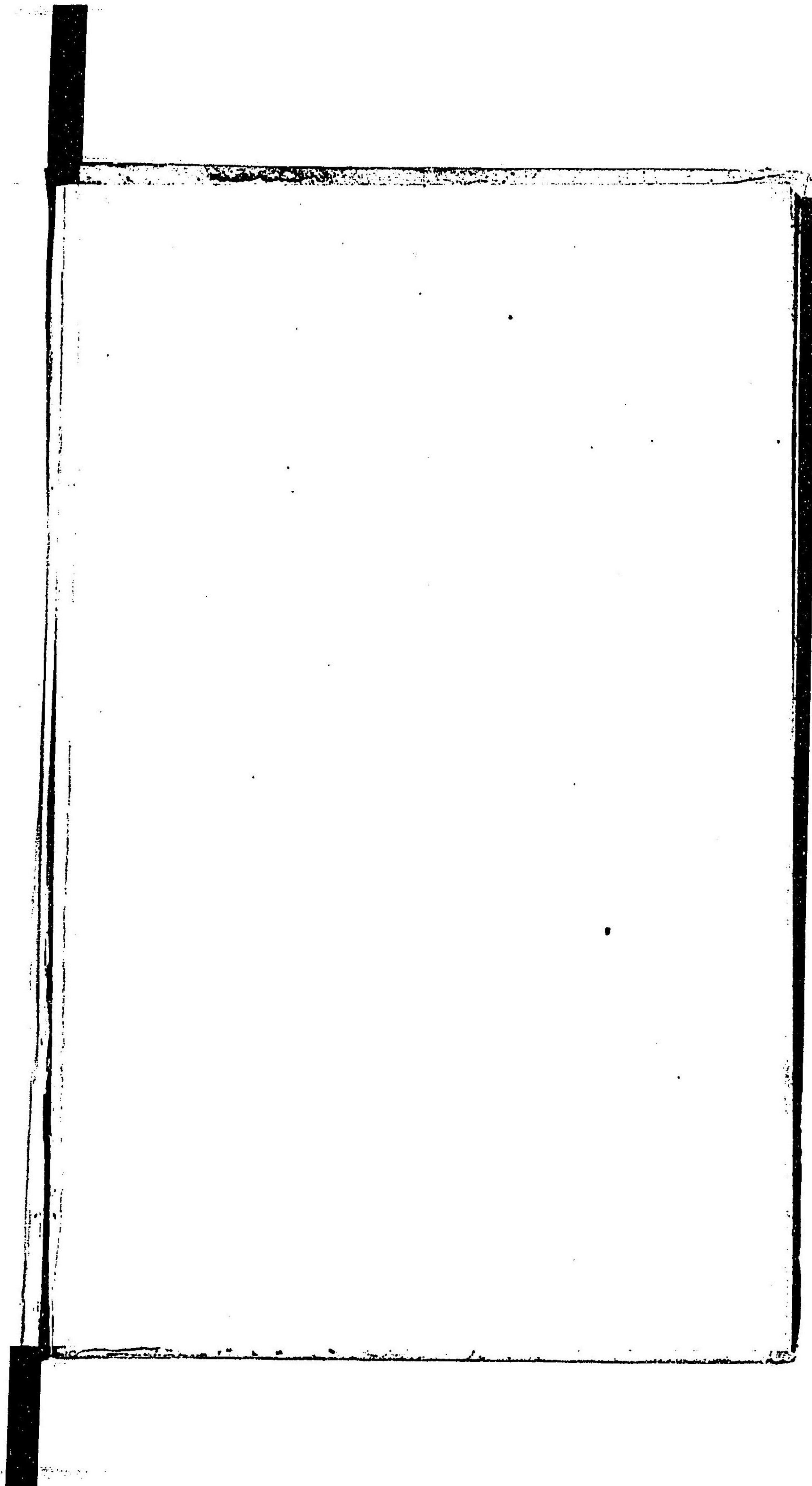
劇場改良法

おのれのおごり

宇進散人編



大阪出版社会行



明治十九年十二月六日 第百廿九号

○劇場改良法

特 13
383



演劇改良會乃創立をさして異見を述べ

春の家おぼろ

名前一たび新聞紙に現はれてこのかた奇ると觸ると其風
 はコレラの評判論に同志相見れば演劇の新案まことに此二
 語にすれば形體あやうく後者を等閑にすれば精神あふなし
 防法の吾等も近來は經驗が積みてさすが又熟練にも上手に
 話機をせども大概大丈夫と思はるれど演劇改良の一大事の
 今度が始元の事あてあれば餘ッ程注意せねば思はぬ仕損じとんだ改良がツン出やう
 もえれど勿論歴々がお骨折との事もあやうな心配の餘計な事いふだけなくくに
 野暮かもしれぬとさりとて言論の自由なる世の中(俗世の事に關する以上)強ちか
 のが説を吞こんで仕舞ふて腹をふくらすのも無斐の業なりよしや先様で御存知の事

でも此方で思ひ附いた事があらばお忠告までやせしめて大して叱らるゝ事もある
まじ未來の爲め文學の爲なりおぼろが淺劣なる改良案も一應前もつてやして置くべ
し

それ演劇を改良せんとすれば仕事の一にして足らざるべし劇場全体の改良の更なり
舞臺の構造土間棧敷の模様道具立の具合雌方の増梅并に俳優の身持の如きも十分改
良をば要すべしと思へど其中第一に緊要なるは所謂正本の改良なるべし即ち演劇の
脚色の改良これぞ改良の本尊本元これから仕直して掛らぬ時に到底其他の改良の
ダンありされば當會の會員各位も最初に此點に心を注ぎて己も主意書にも云々とい
はれぬ、故におぼる事もトツはじめに件の改良から昇見を陳じて次第に他の事にも
及ぶべしと思ふ

我國の演劇は猥褻あり殘忍なり卑陋なり刻薄なり男女の道行のみだりがはしき赤裸
体の立廻りのみツともある鮮血の淋漓たる飽幕の舌ツたるさ共に醜体の甚だしき者

140

なり宜く改良して除却すべしと目今上流の輿論なるべしいかさま御尤も御説にし
て臆も御同意に相違おけれと爰に少しばかりやしたい事あり元來演劇は小説と同じ
く「眞理」(人情の眞理世態の眞理)を描寫するが本分あるゆゑあんまり外形に泥み過
ぎて眞理を殺されてハ迷惑な次第美術と道學とを混同して單又見掛ばかり麗しうし
て全然甘味のなり者にされてハ我々美術狂は哭きたくあるなり小説によれ演劇にま
れ美術の感化力に富たる者ゆる之を社會上に利用すべきは我々人間の本然の務決
して悪いもの申さぬのみか無論風教を裨補するやう美術をよしらへるが當然ならん
がさりとてそれが爲め眞理を殺して美術を風教の奴隸にされてはいかにも心外にて
朽惜しき事なり

至適の引例とも思はれぬと假し例を引てやさうあれば折角兼好が骨を折りたる彼の
優美なる徒然卿も貞家が苦心されし百人一首も情事に關係せる漫説を省かれ至妙至
靈なる戀歌を除かれ眞地目お骨ばかりを殘されてハ美味ハ八分がた空しうなりて定

に歎惜に堪へざる事あり言ひでも御熟知の事でありわらうが美術は真理を以て主體と
 あすめたるたゞ外形がうるはしうありて譬へば「八犬士」の物語の如く仁義禮智信が
 活動する立派な筋書の演劇となりても内に靈妙なる真理なきば默阿彌老人の世語物
 にも劣りて無味淡泊なる精進料理鮮肉たべられた藝文人の一瞥見たばかりで鼻つま
 ひべー従前の脚色は封建主義あり自由の當世には向き難しと唱へて俄に人物の構造
 を改め忠臣に代ふるに民権家を以てし貞婦に代ふるに女丈夫を以てし寶物の詮議を
 經國の商議となし門閥の編執を廢て政治家の軀幹を描き謀叛人に代ふるに私慾家を
 以てし復讐に代ふるに果合を以てし万事を政事臭く造りなせばとてそれにて改良と
 ないひがたかるべし蓋し此やうなる改良のわづかに筋書を改めたるのみにて所謂「
 フォーム」(外形)の改良たるに過ぎざるを換へて之をいへば日本の演劇に附屬した
 る主體の欠點を改めざる者なり主體の欠點とは何ぞを謂ふ曰く人間ぞと思はれざる
 咄々奇怪なる人物を假作しこれを主人公ともし事なり我友半峯居士もいはきし如く

由良之助は「忠」の化物 天川屋は「義」の化物 決して有情の人間とは見えぬ彼の三庄太
 夫を見ずや其貪婪なること「シヤイロツク」(沙翁の人物)の如く其刻薄なることまた
 彼に劣らざるされども其非情の酷しき絶て人間たる形跡をも存せざる故に美學的に之
 を評せば單に「残忍」の化物あり「非道」の怪物ぞと名けんのみ蓋し人間の真理を寫さ
 ざる真理の一部分を粗寫したるに因るなり之を要するに我國の人物の悪方は飽まで悪
 に偏し善人はひとへに善に偏し眞は眞に偏し不義は不義に偏し兎角に「擬人的」の
 物のみ多し無形の性質の化物のみ多しこれ第一に改めたき事なりよしや其趣向は
 封建主義ふればとて件の欠點だけに除くことを得ば之を封建度の時代狂言と見做して
 十分心目を悦ばすに足るべし時勢が自由主義になりたればとて悉皆脚色を自由主義
 にするとは(其様か考察あるまじけれども)万一其様な原案者あらば(所謂外形)拘
 泥しか沙汰あり美術の眞髓を嚙たがへた論なり既往のむ人情も多面白からせ今の
 情に改むべしといはば沙翁がものしりし時代物は勿論其他の世語物もイケヌ部類な

「ボウモント」の作も「ソレツナヤア」の作も近松の作も竹田の作も今日より淨じ瀬
なき物とやらならん

然るに退いて考ふれば決して其様を譯かない筈いかさま人情の皮相だけは時と場所
によりて變りもせんが眞の人情の神髓の如きは万古不易ともいふべき者にて決して
豹變する者にては勿し千年前の人情も千年後の人情も其骨髄たる眞理に於て一毫も
異なる事なければこそ現に今の人が淨瑠璃本を讀みさては沙翁作の傳奇を誦して黃
絹幼婦ありと稱賛するあれ然るを此道理を思はせしめて只管筋ばかりを苦勞にして
野卑なり苛酷なりと氣を揉むものあれと斯様は外形に汲々たる人は悪くすると主體
を誤り美術をムツチヤンチヤ又叫さこめす事あり寔に傍から見てヒヤ／＼するなり
成程無風流な西洋人無雅夢中なる政治家の如きは單に見た所の高尚さうあのを見て
「ブラボウ」「ブラボウ」(喝采)といふかも知れぬと少しく雅眼のあふ觀者の又見せ
ば「日本美術の理知りません一切人情偽物」悉皆排へ物有ますベケ／＼ト言や必

せり是豈日本國の美術の爲る否日本國の文明の爲る(口惜い遺憾なりと言ざるを得
んや

斯様にやそのは和人の心配遠くは歴々は御承知の事とんだ紙塞げの論は似たれど
中にも無識なる傍觀者がありて只管外形を改良するのが今度乃改良の主意と思ふ
て誤解をしないとも限られぬ事もあるザツト頼まれぬに喋々たるものなり
序に筆序にいひたき事あり他なし時代物に關する事なり如何いふ演劇場乃吹廻しに
や活歴々々といふ事が流行て別して近年は其沙汰が烈しく恰も劇場は日本外史さて
は日本史の子分乃如くありぬされば國洲の新歌舞伎は大概時代物に多きやうあり夫
は格別脇が聞たきは活歴の解釋あり即ち時代狂言の精神を聞たし知らむ世に所謂活
歴家は何を時代物の精神とあすぞや「事實」然描寫する主體とあすや風俗を摸寫する
を目的となすや當時を現はすを専一とするや將た又當代の人物の氣象を活して描す
をみて精神となすや思ふに此四ツを除くの外には所謂時代物の精神はあからん知ら

活歴史家は就を取れるや四ツを兼ねるをもて良とする歟其中何者が最要なりと思ふや今般改頁の時に際して定めし活歴史家もかければ一應此邊をも問ひたゞして儘く事決して無要なる事にてはあらじさりとて其返辭を待てるも腕の氣短には待遠なればまづ一卑見から先へやさん

つらく一惟るに時代狂言の精神は歴史に寫さるる所又歴史は寫し得ざる所を現に見るが如く寫すにあり譬へば東鑑北條配等を緋翁幕政の外面を知るべく徳川史難波戦記を緋翁は元和寛永の大概をば知るべしさりとて歴史面に見はる、所はホンの外面の事實のみにて當時の人情も現れ得らねば當時の「主公」の性質もわからざよしや大概は察し得るとおしてゆ流石に隔靴の憾多かるべく簾透に見る思ひあるべし北條時政は奸佞の老雄なり徳川家康は偽君子なりとは少しく活眼ある讀史家ならば誰しも察知したる事ならんがさりとて其仔細の肚の裏は之を描出せる書籍なければ之を洞知せるも稀なるべし而して此仔細の肚の裏にこそ微妙の人情は籠り

たるものにて我謂ふ人間の眞理なる者も常に其内に存する事なれ然りとて此仔細の隠微を討きて歴史に載得べき歟トデモない事万一こんな事まで青史に載さば一部の傳といへど活潑にありて到底たまり得べき事ならぬのみか左様な事實外の「穿」まで寫すは歴史の本色にもあらざるべしそれゆゑ此様な「穿」の種類は専ら小説家と傳奇家で持切りさあから其人を見るが如くに歴史以外に出で寫すべきなり已に此道理は長々しう小説神髓にて述べたれば今はこの位で廢止積あるが兎に角歴史外の眞理を寫すが時代狂言の精神にてあれば苟に「時代物」をものせんと思へば當に此心がかゝつては叫ばず然るに世に所謂活劇家はこゝの骨髄をはらちがへて觀に事實のみを貴がりてヤン事實ソノ事實袴の染色が違つたとか邸の戸障子が時代違ひだとか例の外形で氣を操りせりつやらぬ苦勞するは何事ぞや何加さる風俗を寫す事必事實をたうとむもよい事なれどこれらは演劇の主眼ではなしイヤサ演劇にて示さざとも歴史あり傳記あり古物と眼の肥たる畫工もあるべく古畫もあれば觀古館もあり足らざる

十
ば其道へ踏込みて観るべし強ち演劇を求むる事かば主體の人情を寫したる後にて尙
餘地があらば風俗事實共に成可く支寫すも可けれど肝腎要する本尊と打棄か厨司を
飾らうとは例ふはあしされば演劇にて寫すべきは第一歴史上の人物の壯なり第
二當代の人情なり譬へば元和の時代物を綴らば大坂御陣杯は陰にてすまして成可く
歴史上に現はれぬ事にていかさま當代は斯うでもありんと觀者を感せしむるやう
なる事をば作者の想像にて綴り出し若くは家康の表情を描きて一何如さま家康とい
ふ男は口では君子めいた事を言へど肚では内々に此様奇事をば如何さま企圖んで居
たであらう」ト觀者も知らざるやう綴るのが第一勿論かくいふても事實はさまはぬ
善者を悪人として描かまはぬ時代の違へのみ平氣なりと左様又横へられていふので
はなし當時を寫すのが第一も亦事實をありの儘に寫すには及ばぬ事實は少し計り違
ふてもかまはぬ「眞理」を誤らざるに寫すべしといふのみ世界の傳奇家の泰斗と呼ば
る、沙翁がものしたりし時代物の加さるも全く此氣込で綴りたる者あり

必竟ありの儘に事實を寫すは譬へば宮眞屋の本事にして所謂機械的の仕事なるゆに
材料さへ備はれば誰でもするあり少しく歴史上の事實に通じて一寸洗滌する筆力の
らばたちまち時代物を綴るべけれどそれで時代物だ傳奇がでさたト得意になられて
は歎かばしき事あり美術の味ひは妙想にあり理をめて論じ難く智をめて解剖して示
し難き微妙の眞理をしも描くにあるなり未來の時代物を綴らん作者は此邊参考して
もらひたきものあり

モ一ツお邪魔がからやすべき事あり他なし時代物の組立方なり以上論じたるは時代
物の性質ありしがこれより論ざるは全体の構造なり原來東洋の習慣として小説神史
傳奇脚本とて此般の種類の物をば恰も文章を同一物のやうに心得伏線とか観染と
か照應とか照對とか液瀾とか頓挫とりの妙に構型めいた物をこしらへ強て其内へはめ
こむ事が好なり無論此様なる用心の操縦に必要なる事にてあれどもくの只自然とし
て存ざる者なり求めて得んとするの了見違ひなりまだしも一篇の小品文ならば斯様

な模倣主義も怒すべしなれども「眞理」を描寫するを主體とする小説院本の範圍内へ
 かやうなチツクウな物持いだし來て餘計な邪魔されての迷惑な事なり殊に時代物の
 脚色に關して件の模倣主義を主張するなんどの往々ブチコワシ乃源泉にして吾々美
 術狂は癩の種なり一例を擧てやさうなれば近比新當座の新劇ゆめ物語を評して何
 處か「某がいはれしを聞くに「序幕は脚色が薄弱にして當時の風潮を示し得ざるが
 故に何故華山翁が罪を得しか何ゆゑ長英が嫌忌を受たしか何故兩傑士が慷慨するや
 るこらを明知するに由なきなり云々之を要するに伏線乏しく事實の表現が薄弱なる
 ゆゑ前後の事柄が照應せざる爲に史に昏き觀者をして五里霧中にある感覺おらしむ是
 第一の瑕瑾なり」と正しや言はれたりと覺えたりしが臆が思考する所よれば是等も
 例乃主義の影響かと思はれ眞の確評との思ひ難きなりさりとて歐阿彌翁乃原案が無
 瑕乃品物じやとやすにのあらねど仲乃修正も宜しからざといふ乃みそれの又何故ぞ
 といひんに已に前段にて申し述へ如く總じて時代物乃精神の事實をのりて儘に寫す

にのあらで眞理を描寫するにある事ゆゑ譬へば長英と華山の事とは演劇に仕組ま
 ると思ふ時にの専ら此二個の當時の氣込を現在見るが如く寫すが第一其原因と結果乃
 如きの或の都合に因り寫さざとも可ならん已に時代物を演ずる以上の觀者の大方乃
 事實を會得しして見物すと思ふても可ならん蓋し眞成の時代狂言の無學に史を教ふ
 る爲の物にあらざ識者の心目を悦ばす者なり語を換て之をいひて時代物の演劇の一
 層高尚なる物なり歴史を荷む一讀せざれば決して其眞味を知り難き物なり斯様に説
 來りて再考すれば事實の照應とか因果の關係とかの左やでに要用なる事にてのあら
 じ
 万一己の説を非なりとせば沙翁が傑作たる「シイザル」の演劇の無下に拙劣なる撰造
 なりと言いはん何となれば毫も「シイザル」の事柄を寫さず直ちに「ガシヤス」等の概
 概に移り其ブルナスに於る交誼を示さず直ちに「ブルナス」の愛悶を描し少も照
 應する所なければなりされども滿天下の批評家にして未だ此點に眼を入れて沙翁を

詳りたりし者あるを聞かき異韻同聲に口を揃へて傑作くと雷呼するを聴くのみ必
 竟なるに事實の従なり万一觀者にして因果を察らで「筋」を解しがたく思ふ事あらん
 歟歴史を袖にして見にもくがよし識者に伴はれて見にもくがよし恰も婦女兒童がお
 老爺さんに侍して講釋してもらふて見物するが如之餘所から其不足を補ふて可なり
 尤も世話物の演劇にありての概して悉く作造物なるも亦爰に照應も入要なれば因
 果の關係も緊要ある事あり其故を作者の想像より成りたる事件のこれを作中に示さ
 いる以上の外に窺ふべき書籍もなければ別に開たいさん便もあつて觀者が「筋」を知る
 に困ればなり演劇の脚色にの事を偶然の出來事に取らで宜しく因果乃理に因るべき
 なりト獨逸乃「シルレル」にいはれたりしと専ら世話物に上なるべし時代狂言に事に
 はあらじ希ふは將來乃時代物作者はこゝらを幾分か斟酌してあまり摸型主義に泥ま
 れぬやう取越苦勞をして中しておく也
 之を要するに劇場を以て「無學乃學校」と名づくる事は大に演劇を誤るべき基本なり

宜しく此純粋演劇除去して微妙に感覺に養成所といふ一層適當なる練名を附すべし
 それ演劇に風教を裨補する所以は直に道德を射すにあらで暗に觀る者乃氣韻を
 高らし免に角劇場に在る間はほとく一身乃樂欲は忘れて夢幻乃境界に遊ばしむる
 やう巧に想像を弄ぶにありざるを誤解して史學校となし勸善懲惡のお説法所
 とすは誤解のステキある物あるのみかは美術を誤るべきケンノンなる沙汰なりま
 だくいひたき事山のやうなあれどあまり長くなりて五月蠅がらるゝも可厭なり一
 且演劇論ハ此邊にて切あげいづれ折を得て又々見参扱々ごたいくつさま

●芝居改良の注文筋

曾て洋人の評判記を承まはるに日本の芝居の猥褻と残酷と忘誕の三ツで持切つて居
 るから到底野蠻國の代物と相違ふいと目利したと申すことを御坐いますか如何様子
 ト甚だしい極度の舉動を演ぜる例少なからず殊に濡場の道化役などハ親子連の女官
 が互に舞臺へ顔を背けて紅葉を散す場合も御坐いますか固より男女の感情は非常に

鏡敷ぶものゆゑ左まで極度乃舉動を演せざるに其眞を寫すことが出来ませう。さらば色筋を今少し減黄として、アツカリと見物人の氣を揉せて、如何なるもので御坐いませう。又彼の彌殺しとか申て長い間タラ／＼と苦痛をさせるの類は大概にして、往生させると致して貰ひたいもので御坐います。且つ彼の昔しから作者の骨休みに能く遣ふ神佛の奇瑞や或は狐や猫の怪談の類は丸るで止めなければ日本の女小供は何日までも神経の臆怖風に燈はれ、現に家庭教育の大妨害となります。から以來左様な筋書は一切ドロンと立消に致し之次、夢例の場おどに改良しては如何おも、乃で御坐いませう。夫れ又日本の芝居は歌舞伎と申して一種乃振事所作事の如き能狂言より變化せる者と彼の正銘止眞の活劇、即ち社曾の情態を其儘に寫して眞に迫るを第一とする者との二ツが混滞して居るから、何でも段々と活劇の一方へのみ進化させて能狂言同様、の死物とあらぬ注意なく、叶はぬ／＼尤も其作所事の全く捨たるが惜しいとあらば活劇中へ何とか別に趣向を加へて、全体の筋書を損じぬ様にして演せれば差支へな

き次第で御座いませう。イヤ是は何も芝居の筋書ばかりでなく、繪巻の事に就て申しては、最初には紺屋の模様、の如く一定の離形により死物に畫い、つもの、が後に追々寫生を本として眞に迫るを第一とするまでに進化した、このこと果して左様なれば芝居の筋書より役者の身振に至るまで追々、活劇の一方のみ進化し、まるは社會改良の争はれぬ、定則と申すもので御座いませう。其他衣裳から道具立を始め、何から何まで此の定則に従ふて改良致して、まるからば我が大坂の芝居とて、総理大臣殿に「フロンタコート」を着せて見せる位の貫目が出来後、よ、京坂見物、よ、おゐられた歐米諸國の皇族を御案内申しても恥しからぬ様に立派に、御座いませう。

●女形の女に限る

東西々々、今度東京で芝居改良の一件が持上つて、総理大臣の伊藤さん始め速かに御發成職に目出たらう、ひける然れば日本芝居の本来大元と云ふべき我が大坂府下に於て、清會議員の某氏と、ない例の改良會を御發起なさる、と申すこと、乃至桂結構柳々芝居

改良と申せば先づ第一は狂言の作庭で御坐りませうが此一備は東京の御道中に於て
 めが學者先生も澤山とぞうら一切御任せ申して置がよるしい且つ流石に大坂は日本
 芝居の本家大元なれば一寸改良主義に喰つさ悪いに相違なく其ハ恰と漢學者が容易
 に横文字を讀始めぬと同じ次第で直又ホイソレと申されぬのが却て其貫目のある所
 をがな御坐りませう扱て又次に役者の改良と申した所が是を以ておかく一朝一夕
 お運ぶ話とも思はれず如何様歐羅巴乃或國の俳優にハ大學校卒業の人物もあるとぞ
 ら申すこと日本では小説家にすら漸く大學卒業の者が一人か先二人とは指の折れが
 ぬる位ハ社會の有様で御坐いますから今俄に役者のみ改良しろくと嘆鳴た所が
 始まらないので御坐いませういよいよ改良致さねばならぬとあらば今から一の劇場
 學校を創立し何屋とか世に知られ家筋の役者の子弟も改良主義に教育して掛らね
 ば唯現在の体たらくでソレ改良ヤレ改良と催促した所が何にもならぬ又よしんば
 改良主義が熱心の金王が付て一芝居打て見た所でサア果して木戸留の大入を取るで

あらうか新聞屋も残念ながらナエ一覺束ないと申すの外は御坐いません夫も何か
 一番改良主義の行はれる下題で人氣請合と申す様を甘い考案がハテ浮びさうあもの
 ではあると惣身の汗否ち知恵袋を絞り出してエイヤラヤツと女形は女に限るト云
 ふ一下題を捻り出した次第で御坐い尤も此の下題の趣意と申すは彼の名護屋から田
 舎廻りをする女芝居の類に之なく全く大芝居の柏舞臺へ顔を出す立てお山の役を
 勤める正真正正の女の女形のことを申すのだから皆さん其御積りで
 扱て箇様ハ改良主義の下題を掘き出しましたらばハ、ア此の小新聞記者ハ西洋の芝
 居に女形の女にするぞ云ふことを聞き届つて處をであらうが男女打交の芝居は狼狽
 の嫌ひがある昔し出雲のお國と名古屋山三郎が遠島になつたと云ふ先例を心得居ら
 ぬかなど御此りを蒙るかも知れないから一寸豫防の爲め右の弁明を致して御坐り
 ませう現今日本の芝居の様は男で女形の役を勤むるハ巧みは巧みに相違ないと費て
 見所が詰りのところ自然と人寫だからヤハリ女形女に限ると申さなければなりませ

せん一体女性と男性とは天自然の差別のあるもので或は男が女になれば腰付が優しいと申す御嬢さんも御坐りませうかれども其音聲に至りまして争はれぬもので別に男の音聲を弱くしたばかりで更な女の音聲とは聞取りかねるでは御坐いませんか彼の東京の芝居の芝居通が一ツ話にします大和屋の太夫が血乃道が起つたと樂屋で申したなど随分男性を女性にするに十分の心を用ひたい感服なれども子馬鹿氣一件で逆も今日の社會に通用しない話此の大和屋の聲色を壁越に聞いた所がヤハリ男の音聲としか聞えず夫を何でも女形に聲色を學ばねば芝居であいと思進へ正館正眞の女役者までが鵝鳥の咽喉加割見でも煩らつて居る様ギョ〜とする音聲を遣ふのは實に捧腹絶倒の一件でヤハリ持前の女の音聲を使ふて更に差支なき筈且つは其天自然の優美もあると申すので御坐りませう是の道理より實際に推してまれば其起居舉動より何から何まで男の女形が女の女形に叶はぬのは申すまでも之れなき次第今試に一例挙げて申すならば彼の女芝居の連中が割腹擧輝で取ツタリ

を勤むる時何程殺伐と働いてもソレ何處やら女らしい所があるのは即ち是が天自然男女両性のある道理で争はれない差別で御坐いませう果して左様なれば女が立役とするの不完全なると男が立お山をするの不完全の普通乃道理に於て免れぬ所と申さなければならぬ流石の西洋は學問が開けてあるから藝道即ち美術的の道具立も成丈天自然悖らぬ様々出来てゐるので御坐ります尤も男で女なると變則の働が見たいとの御注文ならば其場限り作筋の書下しで如何様にもなりませうが一体は女形の女に限ると致し舞臺の上にて男女両性互に其天自然の高妙と美妙を合奏否+情感ドッコイ腕較を致したなら看物の目に頼しいのは申すに及ばず必ず大入大人氣を取ることに屹度請合先づ此邊が芝居改良主義の淵源みとして一番芝居の本家大元たる大坂から遣つて見ては如何でせうオットお國と三ナヤンの遠島は誰か昔の役人の機持から申付けたので別に辯護を致すも及びますまい尙ほ此の芝居改良の下題に付て種々の考案もあれど是はホンの序幕丈一應大坂芝居通の御連中の評判記を伺ひましての

ら又々中幕大切と段々御目見ぬを致すを御坐いませうナヨン

●劇場改良の説

文明國の都會には劇場あり其場の規模の大小其俳優の技の巧拙は國々文野都人士の好尚如何に存することなれども要する都會の壯觀にして一廉の裝飾なるは固より疑を容れざるなり左れば我東京府もて追て市區改正を實施するに就ては劇場の地位規模等々注意せざるべからず佛國にて「ナポレオン三世が巴里府の市區改正を施行したる折には重も立ちたる劇場を一所に集めて梨園の美觀を耀かす計畫をなし英國倫敦府にても自然の便宜によりてか劇場の重もに「ストランド」街區に群集するもの、加し東京の市區改正に就ては劇場を一所に集めんとするか或の從來の儘に任じて各所に散在せしめんとするか其邊の輿向の我輩の知る所にあらざれども世事文明の進歩に連れて外國人も追々内地に入り込み都城の遊興を追て劇場を窺ふもの多かるべく今後亞細亞博覽會を始め其他外國人の來遊を促すの機會ある毎に遊覽の目

的を以て我國に來るもの日本の劇場を目標して他年の談柄に供すべしとて我國の劇場が外國人の眼に觸る、機會のまはまると多かるべきが故に梨園社會のために謀れば今後劇場の規模を大にし劇場仕組及び諸道具等を改良し俳優の技藝を發達するに加へて其地位をも進むること甚だ肝要なりと雖も事物改良の成敗の概ね資本の有無に歸せざるのなし資本發に集まれば劇場を改良して見物人の耳目を悦ばしめ兼て又都會の盛觀を流ゆること左程困難なるにもあらず而して其資本を得ること亦甚だ容易なるべしと雖も今日事情に於て然る能はざる所以のもの他にあらば元來日本俳優なるもの、本源を尋ねれば多くの河原乞食の發達したるものにして殊に武門全盛の時代に當りて世に賤められたること亦甚だしく彼等の先人の門所に立ち或の通行人の憐れを乞ひ其技を賣りて其口を糊したるものなるが漸く其仕組を變して謂所芝居の体裁然なし技藝も次第に上達して遂に今日の劇場を組成するに至りたるなれば其漸次に發達する間に技藝を授受する師弟の關係家名の傳授等其山緒

特別にして一國の社會を組織し今に至るまで昔を忘ること能はざる故にや教育其宜
 きを得て智識學問甚だ乏しく、隨て社會に對して其地位極めて卑し位地卑きが故
 に身の責任甚だ軽く技を賣る媚を獻せるの其の本色たるの申迄もなく甚だしき
 世間不評判なる婦女子の玩弄物たる等其社會一帯の空氣何となく高尚ならず又清
 淨ならずして心ある人の之れを近づくることさへ憚とせき其中の俳優等が無賴費
 費を事とし有ればあるに任せて費し一たび醉飽し去りて常に寒貧なるの言ふに足ら
 ざる其劇場會計出納に關する者までも亦俳優同輩の人品にして任俠豪放を事とし大入
 りなれば得々贅費して烟となし客なければ忽ち困難に陥る其最中に無用の縁故類族
 の者は尙餘澤に頼りんとして周圍に集り積年の習慣之れを拂へんとし拂ふべから
 ざれば是れの事情のために會計の常に散漫して収拾すべからざる借金層々相重りて
 會計の當局者の此借金の粗も坐して一たび劇場を開けば其の粗も一枚を加ふるの趣
 きあり左れば爰に新狂言を仕組で劇場を開かんとする其都度先づ金を借らざるべ

からぞ此の時に當り世の金主の劇場借金に山甚だ高きを見見して危險近づくべから
 ざる然知り容易に其募集に應せざる或の舊て之れに近づくる者ハ恰も虎穴に入るの勢に
 て元金の一命を賭する代り其利子非常に高き開劇一ヶ月内外乃間に凡そ何割に相
 當するが如き貸方ありと言ふ斯て辛ふして元利を取立つることを得殆んど虎兇を獲
 たるの觀あるべし金主の爲め又一種の仕事なれども如何にして劇場の會計に餘裕
 を見とんするは逆も望むべからざる事なり
 右の次第あるが故に今日の實際に於て演劇はど儲かる者はなければざる得失常々相償
 ふこと得はざる若し今日の成行を任すれば劇場を改良して帝都の盛觀を流へんとする
 べきと思ひも密らるる後令へ俳優の伎藝の巧にして其人品も亦漸く高きに進むものあ
 るも會計の病は演劇場の膏肓に入りて復た迭すべからざるもの、如し左れば今此の
 病を一掃して健全のものたらしめんとするに會計の組織を改革することは固より
 肝要なりと雖も然れども從來の跡目を承継せしめ之れを漸進せんとするの所謂姑息の

治療法にして左支右吾迎も目的を達し難うの人事自然の勢なるべければ爰に斷然一
 決し從來の劇場は今日限り二分散して先づ借金の筋道を立て身代限りをなすべきも
 のの速に爲し幾百年來河原乞兒芝居に伴ふたる積弊宿害を一掃し俳優其心事を
 改革して自から其身を重し會社の當局者も劇場を以て確實なる事業として儲けたる
 とさの餘裕を以て損したる時の不足を償ひ規模を入にし趣向を新にせば庶幾くの日
 本に文明の劇場を見るに至らん我輩の見んことを樂む所のものなり
 既に前に説きたるが如く從來乃劇場を一掃し去りて復々積弊宿害を留め俳優も心
 事を改革し座主も相應の資本を備へて事業の確實を旨とすることを得べきや果して
 然らんに今の劇場を改良するに佳方銘案なしと云ふべからぞ我輩今改良の一端を
 陳ぶるに先ち西洋諸國劇場の規模を一言せんに場の大小の固より概言すべからず其
 大なるもの四五階にして最下層即ち本土山の正面に舞臺あり舞臺に對して變形を
 なしたる大厦の四五層の観客の席にして左右舞臺に接近したる所に「ボックス」

と稱して椅子三四脚を窄る、掛棧敷様のものあり是れの場合中最良の地位にして席料
 極めて高く一區十五圓乃至二十圓を下らば貴客乃觀覽する席とす舞臺の前面に樂隊
 を置き樂隊は後に高等の客席を設け又其後部に追込みあり席料割合に廉あるを以て
 觀客の競争して占めんと欲する所なり通常の客の二階三階に登り四五階に登るも此
 の最下等にして一人の見物料十二錢内外此席に登るものを天帝と稱す蓋し高きに居
 るが故に謂ふ東京の劇場にて二階の鉄欄乃外にて見物するも乃を熊と云ふが如し斯
 くて劇場の夕刻七時頃より開き夜十二時前に打出すを例とすれば場中にて喫飯とる
 が如き不体裁なく隨て茶屋と稱する附屬物なく唯々場中に酒茶珈琲水菓子等を賣
 る所あり喉喝するものも就て之れを飲食し或の貴客の求に應じて女子の給仕が茶菓
 を捧げて其間に周旋するある乃み体裁と云ひ外見と云ひ實に文明歐化風に背か宅と
 雖も之れに反して我國の劇場ごとく見苦しげ第一劇場の時間長くして通常午前
 八時より午後十時に涉り全齣を通観せんとすれば劇場中に在りて一日十三四時間を

費さるべからず左にだに空氣流通の悪がため場中乃空氣腐敗して往々眩暈鬱息する程なるに此中に在りて十三四時間乃長き耳目を勞するの申迄もなく時間長きがために飲食せざるべからず西洋の劇場にてハ幕間甚だ短かく其比短き間に尙觀客比倦まんことを恐れて舞臺乃前面に樂隊を備へ幕下る毎に面白き奏樂をなすと雖も我國の劇場にて幕間時として一時間にも渉ることあり其間觀客の耳目を悦するもの無きが故に客ハ彼の醫相接し臂相摩する其中に在りて不潔なる空氣を呼吸しあがら茶を啜り菓子を喫し酒を飲み料理を食ひ午飯晚飯と遣ふ等劇場を以て自から酔飽の場となし象人廣座の中お於て飽飲牛食する其醜態は何如程に堪忍して見るも文明國の劇場よりも寧ろ此觀客の奇異なる体狀に驚き恰も日本隨風俗の共進會を觀るの想あることあらん扱て亦此酔飽客に給仕するがために芝居茶屋あるも乃あり甚だ無用のものにして我國の劇場お伴ふ宿弊物おれども晝夜十餘時間の演劇を見んとするには晝夜の諸用を達するがため勢ひ此茶屋おかるべからず然もとも茶屋おれば晝夜

茶屋に伴ふ雜費雜用ありて結局觀客の煩を増すの媒介たるに過ぎず唯今の茶屋あるものは不完全なる劇場の寄生虫なりと云ふべきのみ之れを要するに目下我國の劇場を改良するには先づ演劇時間を短縮せざるべからず時間を短縮すれば觀客の攝生上よも便なり飲食の必要もなく隨て所謂茶屋なるものを要せざるに至らん劇場改良の意あらんものは先づ其時間を改めて追て種々の改良を加へ我劇場をして文明風に適應せしめ外國人の耳目を樂しむるまでに至らざるもせめて日本風俗の醜態を示すの場たらしめざるも我輩の企望する所あり

我輩は我國劇場の改良せざるべからざるこの次第を陳じて扱て顧みて其俳優社會を見渡せば更に亦感服せざるを得ざり云ひ難けれど西洋諸國の俳優中には相應の學識を具へ肉體精神の働きを外面に發表するに心理生理の學則お照すものなきにあらざり世間の人ハ此流の人物を見て書工小説家等と同功のものなりと爲すが故に俳優社會の品格自から高く隨て劇場の地位も高くして恰も貴女紳士會同の席となり

彼の仲士が燕尾服を着用し貴婦人が帽を脱して見物するが如き直に俳優を呈するの
 禮儀にあらざるも自から演劇の場所柄を重じて観客相互に慈愍の意を表するよ
 り外ならざる之れに引替へ我日本國の俳優の社會に對して其地位甚だ卑や地位ひく
 がために身の責任も亦甚だ軽く其仲間一帯の空氣自から汚れて社會上流の貴女子君
 士は其人を近づけざる唯之れを對面唱妓の間に置き名教外の輩ありとあして捨て顧み
 るものなし左れば下等の觀客中には向ふ鉢巻諸肌脱ぎの無禮を冒するもの之れを咎
 むるものなく上流心ある人物にても俳優の藝をば見物すれども其人となりを知りて
 其の技藝然尊敬するにあらす其これを見物するや俳優の活物なり人形の死物なり活
 物の活動の死物の運轉よりもの面白ろしと云ふ位乃品評として之れを度外に置き逐
 に目下下流婦女子の觀具となりたる俳優無識の罪居多なりと云はざるを得ざる亦一
 方を顧りみれば彼の戯作者にて狂言の無向於案ざるものも亦甚だ淺學無識にして固
 よりH進文明の考なく滿腦の想像畫の其模範を封建時代に取るが故に勸善懲惡の趣

旨言な儒教主義より來り孝子の孝の論討に由て現われ忠臣の忠は切腹を以て著しく
 美人薄命才子落魄奸臣頭ハれて寶物を匿し忠義の臣ありて之れを詮索する等劇場に
 叫喚奔走するもの悉く封建時代の遺物にして今の文明社會の人を樂しましむるに
 足らざる開化の世事にハあらざるもなき運命なることを命を捨て此所に死神の亡靈山を
 れば彼所に金比羅の仰利生現われ切腹したるものが一時間にも渉る長物語りをなす
 等正日淨土何程に愁嘆場を演ぜるも我々の俳優が自から信して眞面目に斯かる見戲
 を演ずること思へば餘り馬鹿しきま、呆然として其愁嘆を感ずる能はざるなり蓋し
 我國にても古人は此邊に着眼して説を作したるものなきにあらざる也雖も人文未だ
 開けそ思想簡短にして感覺鈍鈍なる世に在ては悲歡哀樂其の極端を示すにあらざれ
 ば人を働かすに足らざる極端の馬鹿らしきものにあらざれば面白からざるも強て其
 の趣向を變すれば八珍の料理に監胸を除きたるに等しく無味殺風景なる可さか故に
 止むを得ず贅を盡で遂に今日に至りしことなれども今や日本の舊日本にあらざ西

淨文明の主義は有形無形百般の世事を支配して人の思想も次第に繁多にして隨て綴
 密なる時勢に赴きたれば演劇の仕組も此時勢人情に從て大なる面目を改むること當然
 の順序なるべし観客の面目は漸く改まりて演劇の面目は依然たる事の順なるものに
 めらそ左れば最早今日にしてハ金比羅の御利生怨靈の怪異等を省くハ勿論少しく人
 事に近くしても忠臣か君のために切腹する代りに志士が國のために獨立の正義を唱
 ふるなどの趣きを演ずること或ハ男女の關係あれば道行情死欠落等自接ハ肉交の痴
 のみを語らとして進んで情交の優美温潤なる姿を寫す等兎に角に今の開明の風潮に
 作ふて相戻らざる工夫より專一なし即ち演劇の改進にして實ハ社會のために願ふべ
 きのみならず當局者たる作者俳優の身のため謀りても未代の榮譽なるべきなり
 劇場は於て觀客を泣かしめ笑ハしめ悲喜交々至り身其實境に接して其實物を目撃す
 るの想あらしむるハ俳優の技倆の巧拙如何にあること固より言を俟たざれども諸道
 界の配置宜しきを得て野景なれば深山近樹の風致其の興に逼り屋内の模様なれば奇

具陳列品等の工合實際を寫し觀客をして身を其の實境に置、の想ひあらしむること
 肝要なり西洋の小説家が旅客道に迷ふて賊の巢窟に陥み入る杯の趣きを叙するに遠
 山幽谷の模様を寫し途上の景致を寫し尙其興に逼ることを期して實地に就き幽谷の
 草木花卉等を取り調べ之れを記して喝采を博したる由なるが演劇に於ても亦其の工
 夫なかるべからず先年英國倫敦府の演劇を見たる人の話に狂言の趣向ハ姑り置さ當
 日最も目新しかりしハ野景の 齣として樹陰深き所に一橋あり橋下の飛湍白沫を噴
 き村外望斷するの邊ハ尖塔の樹梢を出ぞるあり遠近度合ひて觀客の神魂既に野外
 あり斯くて遙か隔りたる高阜の上ハ一頭、鹿の横臥するあり觀客見て以て畫中の
 物のなせしが既として鹿ハ運働を初め豆人寸馬の間より次第々々ハ舞臺の前面に歩
 一來るを見しは器械的の物にあらざして手馴られたる生鹿にてありしと云ふ我國の
 演劇にてハ俳優の運働を專一にして舞臺の景致に意を用ゆること尙未だ至らざる故
 か興味索然役者の絶技も其光彩を放つこと得らざるもの多きハ甚だ遺憾なりと云ふ

べし此等の欠典を求めて今の劇場を改良せんとすれば種々の方案あるべしと雖も先だつもの資本なり此の資本を得んとすれば借金芝居の弊風を一掃して新劇場を創創せざるべからず我梨園の當局者の果して此の覺悟ありや否や苟も此の覺悟あらば我國の劇場を改良して都會の壯觀を添ふこと亦至難の業であらざるべし

今の日本芝居を改良して文明の時勢人情に適當するものを起すべしとは兼て我輩の企望する所にして時に其の次第を論辨して社會公衆に質したることありたり蓋し芝居は社會の風俗男女の氣質に容易ふらざる影響を及ぼすものにして決して輕々し看過すべきものにあらず今の日本社會を改良せんとするには今の芝居を改良する如きも無論其の重要な部分を占むるものたるべし近口井上大臣森文部大臣をはじめ朝野の諸名士同感をして相集り劇場改良會と稱するものを起して廣く會員を募り大に今の日本芝居を改良せんとするの企てあり我輩乃其の同感賛成する所にして諸氏は勞を空しからざらんことを飽まで企望して措かざるあり劇場改良會の報章にも概論

しある如く今の日本芝居を改良せんとするに二三の者を要す曰く適當の役者曰く適當の作者曰く適當の劇場以上之れなり而して此等の物を得るに者多少の困難なきやあし中に就き適當の役者の如き急に之れを得るに最も困難のものならん苟も文明の役者と稱せらるもの技術品格を具ふる外に深遠の學識なかるべからん文學に富まざるべからず語學に達せざるべからん文明世界の事物に通じて文明世界の思想を有せざるべからん然るに此の様な人物を今の日本役者中に求めんとするも恐らくは一人の合格者を見出すと云ふ六か敷あるべし今の役者中技術の一端に於て文明の役者たるに必しも不足せる所なきもの多々あらんと雖も學識文學以下の事に關しては寧ろ皆無なりと云ふは外なかるべく實に残念千万なりと云ふを得ざる抑も人間社會乃輿論に訴へ其の輿論を働かすの方法許多なる中にも新聞書籍演說講演演劇など乃如きは最も効力の著しき者にして政界社會の士を初めとして宗教家なり藝術家なり商工家なり皆な此等の方法に依頼して以て人に説くの工夫を求めざる

はなし我が日本社會に於てハ開明有爲の壯士にして或は新聞に或は書籍に或ハ演説
 講談に各我が信する所乃事を吟述して公衆に訴ふることを勉め問ま或ハ落語講釋
 師に身をやつして我が主義の宣布を謀るものさへある折柄未だ一人乃俳優となりて
 舞臺に技を演し滿場の觀客歎して一笑一派熱中の際に飽くまで我が主義を肝酪せし
 むるものなきは我輩の甚だ遺憾とする所なり愛蘭の作者兼役者として有名なる「ヤ
 ヨンプマニエ」氏の如きは本國愛蘭人乃英人に虐遇せらるるを憐み自から其次篇を
 脚色にして自から其の役者となり英米の諸劇場に於て諸れを演し妙技妙作乃力を仮
 りて大に人心を感慟せしめたる尙其上にも演劇に所得を本國に送りて賑恤企業の資
 本を供したるハ世に隠れなき事柄にして現に記者の如きも數年前倫敦に於て同氏乃
 演劇を見物し其ハ脚色技倆如何は問へに及ばず唯其ハ人の志に感して坐るに落涙
 したることあり芝居ハ勢力想ひ見るべし此乃如く芝居ハ社會の一大利器にして今乃
 日本は多事多難なるに抱はらば志士の之れに心を潜めて自から其局に當らんとす

ものなきハ誠ハ不思議の事相ありと云ひざるを得然れども之れ等の事は今更之れ
 を撰々するも益なく唯たいまの日本芝居を改良するに當りいまの役者にして果して
 改良芝居の用に應ずるに足る可や如何と云ひんに我輩は當分の内今の役者を使用す
 るの外に個の妙案なかるべしと答へし而已蓋しいまの役者中技倆の甚だ熟達せるも
 の少なからば若し之れに授くるに適當の脚色を以てせんハ相應に文明流の演劇然
 得るの工夫もあらんと信すればあり然らば唯だ此の脚色を興ふる者ぞ云はんには
 れ亦甚た其人に乏しく當感の次第ありとは云へ雖いまの日本に於て作者を得るは役
 者を得るに比すれば稍容易ありと云ふて可あらん宜し或は意外に容易ならざる事情
 ありとするも從來歐米諸國に存在する所の種々の脚本の中に就き最も然るものを撰
 んで之れを翻譯し更に之れを日本の今乃人情風俗に適應するよう多少に修飾し多少
 ふ其の趣きを變せば相應に面白き脚色を得るふ左成で困難を感ずることのあかるべ
 し斯の如くして役者と作者とを得ざる後次に必要なるものハ劇場ありいまの日本の

芝居坐は何程之れに修飾を加ふるも到底新劇場に用供すべからざるもへに是非共新規に建築せざるべからず其雛形にハ歐米諸國に現在する怡好の劇場を其儘に用ゆるとすれば建築の勞も大に減せることならん而して其費用及び費用の出所の如何と云ふに新劇場は先づ三千人を容るゝに足るものとて其の工事造作も相丈け質素にすべしとすれば大數十五万圓内外の建築費にて十分ならんと思ひる、なり其の出所の如きハ或ハ演劇會社を起して株金を募るか或ハ數名の有力者が資本を提出してこれを弁するかいづれにも適當の方法を求むべきなれども新規の事柄と云ひ殊と急お収益の十分あるべき見込みなき企業ならんとすれば民間にて私にて金を集めることの或ハ行届かざる掛念もあらんかなれども幸にも文部省は演劇の改良に注意すべき該當と官司と云ひ殊に同意しては近所現に音曲取調所などいへるものを設けて歌曲音樂等に關するの事に熱心盡力の折柄れば此の演劇改良のために十分の勞費が貸與して惜まざるべきは我輩の信じて疑はざる所なり又帝室の如きは美術

文藝の保護獎勵に最も意を用ること文明諸國の例なるがゆへに我宮内に於ても日本演劇の改良ハ深く重賞せらるゝ所なるべきかとすれば改良當局者も大に其の頼む所を得て成功を急ぐの工風を得べく旁以て劇場の新築は左まて困難事ならざるべしと信ぜるなり果して然らば今の日本の芝居を改良するに當りて速に横はるの故障種々なりと雖も必しも成功の望みなしと云ふべからざらん人心を感化するの効最も速かにして且つ大なるハ演劇に若くものなきなり勸善懲惡道德の教は往々尋常人の口に苦かき好んで之れを玩味するものなしと雖も一旦世の訓を取りて之れを演劇中に加ふれば苦樂を甘味に交ふるか如く人々樂しんで之れを味ふ其中に名教の趣旨は自から其の心肝に酪して知らず購らば其の好尚を變じ其志操をたうくすることを得べし左れば西洋諸國にては風教上頗る演劇の事を重じ帝室にて劇場を所有する所あり或は政府の手を以て之れを管理するの國もあり音樂演劇は孰れも文部教育の一端として之れを等閑視せざるもの、如し曾て聞く我國の

道中双六は昔時勤王の意を寓したるものにして之れを玩ぶもの、葵心をして知らず講らるる京都に向はしむるの工夫なりと微なる道中双六にても尙此の用あり況して彼の大仕掛の演劇を利用すれば寛猛又野人心を誘北するの功果して如何ぞや然るに今よ之の演劇を抛擲し去りて之れを無識者の手に委ね千萬人の目前に於て時に野卑淫猥の觀を呈せしむるとは左りとて餘り不都合にわらざるや我輩窮うに爰に見る所ありて先きに演劇改良の必要なるを論てしが頃日來東京朝野の伸士中にも亦演劇改良の説あり追て之れを實行せんとせし目下其の計畫最中なりと云ふ我輩演劇の事に於ては甚だ寡聞なりと雖も此際聊か餘論を開陳して演劇改良家の参考に供せんと欲するなり

演劇改良の手段として先づ劇場を改良するに付ては和洋を折衷して彼此の所長を取ること勿論なれども西洋の演劇は舞臺の天井甚だ高くして幕も天上より下り毎齣の幕致摸書も交るく之れを吊り下げ亦吊り上ぐるの仕掛にて日本の劇場の如く一々體道具を取り外さずの手段なく隨て幕間甚だ短かく多くも五分時間費すと云くして最も便利なるが故に先づ此の仕掛を取らざるべからず又西洋の劇場は大抵夜興行なれば場中常に瓦斯燈を点し晝芝居よても亦わざく場内を暗くして瓦斯燈を以て明かを取るを常とす其の故は嘗て本紙にも記せし如く西洋演劇は場中の裝飾道具立と吟味して成る丈は之れを實景に模倣し觀客として身を實境に置くの思ひあらしめ極めて俳優の技藝を引立つることを勉むるが故に舞臺の天上に各種各色の透鏡即ち「レインズ」を罩り之の透鏡より光線を通して之れを舞臺の景色模倣に映寫せしめ例へば火事の實景を現はさんとするは赤鏡を用ひて其の火照の勢を映し新月機槍に掛りて暮色乃暮然として至り秋風黃昏して白雲飄渺たる模様なれば色鏡の方を假りて其乃滯淡の色相を示めさんとするがため是非共劇場を開くせざるを得ず蓋し演劇の上進とは役者の技藝の精妙にして觀客を感動すると道具方の工夫能く造化の工を養へて實景の舞臺夫に乏しきが故に演劇改良に躍出するにあり我國の演劇は

殊に此の道具方乃工具の當局者の最も先づ意を此に注がざるべからざるなり
 歐洲諸國にては劇場の道具摸様の發達したるは實に近年の事にして往事は今の日本
 劇場の如く立木貳三本を立て山あるを示し格子戸を横たへて家の内外を表する等道
 具摸様の簡短なる番圖面に山川城地の目標あると一般に粗末千萬なるものと見へ
 「シエーナスピヤ」の或る脚本中に此所の深山云々の言あり蓋し當時の道具立甚だ不
 完全にして深山の景致を顯はす能はざるが故に此の言葉を添へて始めて其の深山を
 るを表したるものならん近年に至りては道具方増すく精巧を極め而三年前英國倫
 敦の或る劇場にて露西亞の罪人が「サリベリヤ」に流され聖深き洞窟中に囚臥して故
 郷の情婦を夢みる所を演し大に評判を博したることありしが其乃道具立精巧にして
 雪地の景色洞窟の摸様寫し得て眞に廻り流人は洞の入り口に倒れて夢か幻か時々變
 惚けたるが如き假聲にて蕩繁華を述懐する其の際に洞の奥に男女の姿「ポイヤリ」と
 顯はれて夢中の人が情緒纏綿あるの狀を寫し其は景致云ふべからざ此の邊の劇場に

至りての役者の技倆何程も妙なるも道具立の精緻巧妙あるものあるにあらざれば興
 味索然たらざるを得ざるあり道具方の改良肝要なりと申すべし又西洋劇場にては場
 中に書畫等の額を掲ぐることなし蓋し演劇場にては觀客の注意を他に轉せず常に舞
 臺に向はせしむること肝要なるが故に相間に額を掲ぐる等の習なき者にては有んか
 此の事より云へば東京の新富坐中に數面の額を掲けたる杯は注意の未だ周到ならざ
 る所あるに似たり意ふに西洋の劇場にては道具摸様に於ても新趣向日々續出するこ
 と必然なれば我國にて演劇を改良するに付ては差當り西洋流の道具方に精ばしきも
 のを得ざるべからざるは勿論或は其の改良乃摸様を大にせんと欲せば其向きの人々
 を西洋に派遣して彼の劇場の實地に就き其の道具方一切乃摸様を傳習せしむること
 肝要なり演劇改良家の先づ此の覺悟なくては川ぬ事あらん
 今の日本の戯作者とて狂言の趣向を案ざる者は固より淺學無識にして日進文明の考
 なく滿腦の想像畫は其の摸様を封建時代に取るが故に勸善懲惡の旨趣皆な備致主観

より来る文明の世態人情に適合せざるもの多し特に昔時封建の時代には演劇俳優の地位甚だ低く之れを見物するものは専ら下流の人なりしより戯作者も亦其情に訴ふることを目的としたるあらんと雖も観客乃思想進歩して昔時の簡短鈍鈍なるの比にあらざる今日尙其舊筆法を守り悲感哀樂その極端を示して頹廢なる感覺を痛刺するあり妄誕怪異馬鹿らしきまで世の虚傳を誇張するあり或は肉体淫褻の醜を現はし或は人情外乃惨刻を示して容易に血を流し人を殺すあり其は趣向の野卑殺伐なるがため今之の優美なる人情に對しては兎角温厚は尙の趣なき欠きて之れを慰むる能はざるもの、如し畢竟我國の演劇は社會に對して其の地位甚だ卑や俳優自身も亦自から其身を輕し「錦着て舞の上の乞食かな」おどの運懷とる程の始末なれば彼の戯作を事とするものは恰も此の乞食に齒するの姿にて如何程の妙案を工夫して錦心繡腸を布置するとも之れを伴ふの名譽なきが故に學術文章の士は其の新趣向を脚本と發露することなく脚本著作は一に無識者の手に歸すること、はなれり西洋諸國にては

演劇を以て貴女士君子の觀具となし好脚本の劇場より上りて看客の喝采を博するときは作者の名聲も亦忽ち世に馳するの趣あるが故に脚本著作は學術文章の士が其の奇想妙文を現はすの地となり隨て好脚本を續出するあり特に此の脚本著作は文辭の名聲の他に其の脚本の版權與行權を有し或る劇場にて其の著作を演ずるときは座主との相談にて一時に相當の報酬金を得ることあり或は其の興行中日々若干の謝金を受くることあり其約束の様々なれども有名なる作家に至れば其の版權與行權より收入する所甚だ大あり蓋し西洋の演劇は評判次第にて同一外題を一年乃至二年間も演し續くことあり近年英國倫敦にて好評判なり「シンコンピュヨン」即ち「選題と題する滑稽演劇」は或る家乃花嫁か其亭主に告げずして一の狗兒を買ひ入れたるに亭主は邪推して花嫁か其の婚姻前に宿したる情夫の子を産みたるからんと夫より種々様々の行違を生して事の丸て混雜する有様を仕組したるものにして觀客をして能く抱腹絶倒せしめ其興行殆んど二ヶ年に涉りて作者は莫大の利益を得たりと云ふ然るに我國

の戯作者は確實ある興行權を有せざる或る演劇にて新脚本を演ずるに當り劇場より作者に報酬を金は凡そ二百圓内外なきとも作者は夫れくの門弟も有りて其の幾分我判與せざるべからざるが故に一興行中作者の手に入るものは百餘圓に過ぎざる勿論此の作者の間には舊來の慣例もありて師は門弟の収入上を幾分乃利益徴収する由ふれども著作の報酬として其の手に入るものは實に輕少なるが如し即ち我國の脚本著者は名譽も亦名譽もなく報酬もなくして自然無識者の手に落ちたるならんはれは今後好脚本演出さんとせば先づ演劇の地位を進め作者に版權興行權を興へ學術文章の士をして名譽のため利益のため新脚本に苦心執筆せしむること最も要肝の事ならん前記の如く脚本著作をして名譽あり又利益あらしめ學術文章の士が筆を抽て此の著作に從事することどもあらば淫猥を去り殺伐を除き妄誕怪異を一洗して文明の人情優美高尚ある所を寫し悲觀哀樂その極端を示めさせしめて穩に其の情の流行を現はし所謂長歌の悲は懨懨と過ぐるの趣きを存して程よく穎敏なる感情を働かすの

妙案もあらん西洋の演劇には様々の種類あれども「ドラマター」即ち悲嘆式「コメヂ」即ち滑稽式は其の二大別なり斯くて悲嘆式には絶て滑稽の旨を交へせ「一式全くと分立すれども日本の演劇は一幕の中にも往々此の二式を混ざることもあり或は云ふ悲嘆場の通し幕は人心を倦ましむるの恐ありと或は云ふ悲嘆中に滑稽を交へれば情を冷却して観客の情を移すの患いありて此の邊の得失は我脚本著作乃今後大に研究すべき所なれども何を云ふにも脚本著作は名譽利益の伴はざる以上は佳作は出でず好脚本も亦出現せざるべし演劇改良家にして世に好脚本成績々出でんことを望まば先づ脚本著作者に報せざる所以を思はざるべからざるなり我國の俳優は社會に對して其の地位甚だ卑く地位卑きが故に身の責任甚だ軽く甘んじて名教外の輩たるが如くなれども文明社會にては演劇を以て文治教育の一端とするの趣きあれば俳優も亦自から重んぜざるべからざるは我輩の嘗て助言せし所なるか俳優なる者は其の行狀を慎む乃他に文明の學識を具へざるべからせ西洋の演劇の

れば或人が講談師の掛合の如しと評したるに違ひを言語應對十の八九を占め然かも其の言語は極めて優美婀娜なるものを用ひ俳優の言語は談語の摸範たるべき程かれば苟くも規則外れの言語を許さざ倫敦の或る劇場にて有名なる俳優「シエーキメビヤ」ノ「ハムレット」を演するに當り其の俳優の見識を以て「アキーン」と云ふ字を「メキン」と讀みしに忽ち學者間の疑問となり賛成駁論一ならず果ては新聞紙の論説も止りたることあり俳優言語の容易ならざる想ひ見るべし左れば西洋の俳優は多く高等の教育を受けたるものなり當時英國第一流の俳優「アーウサン」氏の如きは頗る哲理に通ずるやの評判あり斯くて俳優は夫れ々々の見識あるが故に好脚本を得て之れを舞臺に演するに當りて扮装態度の優美を示すは勿論観客感情の察して或の之れを刺衝するなどの餘りに激切ならんとは恐れもあらず体裁より脚本中の一部分を隠蔽することあり例へば「シエーキメビヤ」の脚本中にある男か姪姪のために其の妻を寢床上に殺殺するの場あれども有名なる俳優某が之れを演ざるに當りて其

殺殺の所を蔽ふて之れを人に示さざりしと云ふ又俳優の不注意にて其の舉動の觀客を激することあざむらば忽ち不評判を來すを免れぞ倫敦の或る劇場にて家僕が其の部屋に歸り來り汚れツツを振ふ所を演したるに觀客は大に其れ不敬を怒りて忽ち此の演劇の聲價を墜したることあり文明社會禮義のやかましき世の中にては俳優技藝上の注意も亦容易ならずと知るべし篇首より陳述し來りたるが如く劇場を新築して其の道具立を改良し脚本著作を學術文章の士に任じて之れを演する俳優の注意を要し日本國の演劇として之れを外國人に示して毫も愧ずる所なきものを出來したる所にて扱て其演劇が果して日本人全体の好尚に適して興行毎に大喝采を博すべしや如何我輩乃豫知する能はざる所あれども我輩が爰に演劇改良と云ふは一時に全國無數の演劇を改良せんとする歸柄にあらざ世態人情の進化するに連れて都人士の好尚自から變化し舊來の野蠻演劇を以て其の情を慰むるに足らず殊に外交も頻繁にして外國人の來遊も多きことなれば此等の人々のためみ差當り首府に新劇場を設けて文

明流の演劇を崩かんと希望するに過ぎず且つ其の改良演劇とても散て六ヶ敷事
 又あらざる言詞脚色を用ひて通俗の旨に背かず又其の脚色より男女の交情を除き去
 りて興味索然神宗坊主の村談會の如くならしめんとするにあらせ唯從來の演劇より
 文明人の眼に忌まはしき部分を除き去り優美高尚の旨を存するに至れば夫れにて満
 足する者にして即ち今の中流上の人情に適せんとするものにして心ある人々は必
 之れを見んことを樂しむことならん若し夫れ下等人民か或は田舎漢に至りては想
 簡單にして其の感覺鈍なるが故に今の東京新富座の演劇にても尙得或は無味高尙
 なるを感し之れを見て欠伸を催すものめあらん試みに田舎芝居を見るに岩永左衛門
 は赤鬼の如き面にして甚だ悪態忠の色白く眼涼しくして善人の如く「同じやう
 座にあらんで殿様顔してござれぞもいさかたの雪と墨」なる趣きの阿古屋を俟て知
 らざるなり思想簡單なる田舎人は斯る演劇を賞玩するならん云へども優美なる
 都人士は之れを見て其の情を感さむること能はざるべし即ち人の文野によりて其の

好尙を異にする所謂なり故に全國無数の劇場をして悉く文明好尙ならしむるの固よ
 り望むべからせと雖もせめて東京の府中に一の文明劇場なかるべあらせ然るに
 今東京に於て優美なる紳士貴女の適する劇場かしとすれば是等の士女の來觀を目
 的として改良劇場を開くこと甚だ大切の事なるべし演劇改良家の今までの人心の勢に
 乗じて速く其の功を成すの覺悟あるべきものなり
 劇場改良乃事に就てハ過般時事新報ハ我輩の鄙見を陳べて讀者に於ても甚だしき異
 論は無きことあらん抑も演劇なるもの、性質を果して善きもの手又悪しきものあり
 の邊への議論は始らくさし置き凡そ世の中の事に善きも悪きにも人の之れを見馴
 して悦ぶは演劇の右に出づるものなかるべし即ち人の心を引く力の最も強きものな
 れば此乃引力を利用して以て文明乃利を謀らんとす即ち改良論の起る由縁にして文
 明の士人が之れを容易看過せざるも偶然にあらせ況んや之れを利用して利の大なる
 ものは之れを誤用して害の大なるものあるべきに於てをや今乃日本の演劇は殆んど

誤用せられて時としては有害の聞へもなきにあらざれば其の改良は決して不急の問
 題にあらざるべきを知るべし扱てその着手に望んで如何なる變化を生じて如何な
 る結果に至るべきやと尋ねるに我輩の所見を以てすれば第一演劇に正當乃資本を用
 びて劇場の仕組を盛にし以て都會の壯觀を富ますに足ることあるべし従前日本乃芝
 居の元方なるものは山師の仕事にして投機に甚たしきものなれば正當の資本は常に
 用ひらるゝを得ず之れがために其の組織も自から粗末にして所謂小屋者等が藝を賣
 る乃場所たるに過ぎざり蓋し今日にても尙芝居小屋比名稱を存するは以て其の實際を
 證するに足るべし固より今の劇場を以て百年前の小屋に比すれば雲泥の相違あらん
 と雖ども語り小屋のまゝに進歩したるものにして僅かに餘り下の醜態たるを免る
 も乃あるも其の壯觀の名を得るまでには餘はと縁の遠きものあり故に改良の第一着
 は大に資本を集めて興成の大劇場を建築すること必要なるべし或は今日世態にて
 は此場を獨り演劇のみの用に限らざりて音樂講義演説等其他都て賤しからざる行樂

會同の事に兼用する乃工夫も亦可ならん外國人などが東京に來遊したるときなどに
 も皇居を始め國會議事堂諸工場諸學校に兼て演場を見物し例へ其の内を類はざるま
 ても外親が目撃して壯大に驚く如きは即ち帝都裝飾の實効が奏したるものと云ふべ
 し第二演劇の時間短くして場中に飲食することを禁ぜべし維新以前徳川の時代に
 江戸の芝居は拂曉幕明きにして点燈前に打出しの慣行ありしが維新後今日の所にて
 は午前又は午後より夜十時十一時に亘ること、なれり斯くて見物人も疲れて養生
 のためにも宜しからざる且つ劇場中飲食するは体裁も見苦しければ寧ろ西洋風に午後
 晩食の後七時頃より始めて十一時十二時に散しては如何と乃説かれども又一方より
 見れば宵より入場して十二時に散し深更家に歸るも衛生に宜しきものとも言ひ難し
 左れば午後一時頃より始めて夕七時前に終りて家に歸りて食事せしか封建時代の如
 く閑散の人のみなれば至極の案なれども人事の忙かはしき今日午後は正に仕事の時
 間にして之れを演劇の見物と費を惜むべし左れば折中して午後の仕事を切上げ四

時か五時より見物して九時より十時に終はらんか先つ今ま乃日本の生活風に従ひ都合好き時間なるべし但し午後四五時に晩食を終りて家を出づるは食事の時刻早しと雖とも短日の時節なれば左まで乃不都合にもあらざ或ハ劇場迄往來の遠近により自宅に於て食事しては時刻に後くる、向もあらんならは是等のためにハ劇場附屬の休息所にて点心の要意して差支へなるべし凡る此の邊の無向にして午後四五時より始めて九時十時に終へるとすれば演劇の時間正味五時間にして幕間を無くすれば從來の芝居にハ九時を費したるものも五時間に終ることを得べし又今の所謂芝居茶屋なるものも無月の長物のみならず時としてハ有力の書物たるが故又一切之れを廢止し看客座に入らんとするものは公共の待合茶屋其の体裁は凡そ今の鐵道のステーションの待合所の如きもこれにして上中下の等を分ち上等婦人の待合所の如きは特別の便所は勿論漱手洗の手當まで殘る所なく備へ付けるは日本流の習慣に由れる手狭ある更衣の間も必要ならん場中並に休息所待合所とも一切西洋風の建築構造にして疊

みわらざれば婦人も洋服を着して靴をはくこと願はしけれども一樣に成り難しとあれば日本服にてもはきもの丈けハト靴又ハ上草履を用ひて可ならん上流の看客なれば徒走にて往來するものは妨かるべきが故に車にて家を出で車にて待合所に達す其の車寄りの都合よければ雨天にても下駄を用るに及ばざ或ハ下等の客なれば見苦しさを厭ひ上草履を懷中して行く者もあるべし兎に角に演劇見物中並に休息食事待合中とも疊又安座することハ無きものと覺悟とべし
 大凡以上の如き仕組にすれば終日夜に入るまでも十餘時間の見物又愉快を覺へたる輩ハ今般改正の時間長からざるがため大食家に食を控へたると一般何れ物の淋しさを心地するものもあるべし又従前の看客中には演劇の見物中飲食を大切に思ひ且つ飲食し且つ見物するを以て無上の快樂とするものもあらん甚しきは俗に所謂花より団子の諺に違はざ飽食餘飲を第一として演劇を餘所に見るものもあらん然るに今場中に飲食を禁ずるは取りも直さず此輩の快樂の半を奪去るの姿にして勢不平なきを得

さるべし本来見物の歡心に依頼する演劇の興行にして之れは不平不満足を抱かしむるは甚だ不利なるが如くなれども又一方より考ふれば我輩が演劇改良論を喋々するの文明上流の種族を目的に事を謀る者にして上流下流二様の心を得んとするはどても望む所にあらざらん心の同しからざる其の面の如し上下二流は既に其の人相も異なり其好嗜の異なるべきの當然の事なれば此流の下人は下等の演劇を求めて可なり都鄙共に其席に應ずる者少からず最下等の芝居より安芝居中芝居段々際限あるべからざる是等は容易に其改良に着手すべきものあらざれば行て見物し食ふても可なり飲みても可なり向鉢巻放聲罵詈も妨げざ下等社會結々然として餘地あるものと云ふべし唯我輩の中央に一大劇場を開て今までの文明上流の看客を満足せしめ或は其の餘勢を以て他一般の劇場に改良の端緒を開くことゝあらんかど竊かに之れを心に期するのみ

第三演劇の仕組み次第に談泊にして人間の幸不幸の様善不善の働喜怒哀樂の情の何

れの邊に迄達すべきものかど其極端の想像を寫し出して人を感動せしむるの工夫にあるものなれども眼を實際に轉じて文明進歩乃權を見れば人間萬事移り行く年代と共に濃厚念劇より淡泊優美に變遷せざるものなし故に想像を寫し出す劇場に於ても常に此の人事變遷の實相に着眼して例令事の極端を配すに其の極端の度を上下加減して正しく其の時の人情を訴ふるの工風なかるべからざる此点より見れば演劇の空想にあらざりて常に事實を伴ひ正しく當世の氣風を寫したるものにして其の國に入が其の演劇を一見すれば以て其國其時の文明を卜するに足ると云ふも可なり古代には古代の演劇あり近代には近代の演劇あり時代より同しからざるのみならず各地人文の相異に隨て一様ならず西洋諸國の演劇が東洋諸國の演劇に異なるは正に東西文明乃程度如何を顯するに足るべし或は近く日本國中に於ても東京の芝居は日本第一にして大坂の之れに亞ぎ田舎に到りては眞に田舎芝居にして見るに足らざるのみか東京人の眼然以てすれば田舎役者の藝の巧拙は姑くを其の趣向乃賤しくし

て殺伐殺塵景なること一見して厭ふべしと云はざるものなし蓋し田舎の役者悉皆拙なるものならず時に或は都會又俗業して相應の技倆を抱くものもあらんと雖も如何とせん其の地方の空氣鄙陋殺伐あるがため其の空氣の運動に従はざれば見物人を悦ばしむるに足らざ故に例へ稀れには高尚なる藝人あれども其の藝を高尚にする體はせして流れ渡りに人氣を取ること務むるのみ畢竟之れ役者の罪みにあらずして看客の致す所と云はざるを得ざ故に曰く演劇は世事乃變遷人文の程度に隨ひ其の實相を寫し出して諷刺するものなきなり切て又爰に筆端を轉じて世事の變遷との如何あるものぞと尋ぬるに前太平記太平記時代の鬭争は敵を殺さざれば敵に殺され双方心死を期して敗北するものは妻子も共に死を免れざるの常なりしものが元龜天正の頃に至れば時としては政敵又ハ謀反人を捕へて降地に放つ等乃事あり殺伐殘忍乃氣風少しく緩和したるものなり又往古の法に竹鑊炭以て首を挽き切るの刑あり油の釜に煮殺すの刑あり一文斬りの嚴刑あり蛇責の拷問あり下で徳川に至りては其の刑法固より嚴酷なりと雖も其の嚴酷中にも自から手加減なるものを存して實際に慘狀と見ることハ古に比して甚だ少あしと云はざるを得ざ又土人争鬭の事に就ても武門全盛の時代には些少の行違にても直ちに腰間乃刀に訴へて刃傷に及びしものが舊幕府の申業以後は腕力に交ゆるに言語を以てし刃傷は稀にして争鬭の喧しき時勢とはあたり何れも人事の濃厚より淡泊に變遷したる世相にして人情に多少の優美酒落を増したるの證として見るべし又是の濃淡の差は時代の今古に係すると共に土地の都鄙と人の種族の上流と下流とより其の情に現はれて著しきものあり田舎の人は物の色合にも黑白分明なる歎悦んで暖時模糊の風致を解するものさへ少なく其心事常に性急よして善惡邪正醜美長短共に境界分明ならざれば心を飽しむるに足らざ故に人に徳すること甚しければ其の徳に感し其の仇に報するの念も亦深し忠僕の恩忠なるは必き田舎者に限りて姪姉の姪醜あるは必き下等社會に多し何れも事乃極端に至らざれば其の情を慰するに足らす俗に所謂厚かましきものにして之れを都會上等

人の心情優美にして洒落なるものには比すれば同日比論にあらざるのみか或は其の好悪哀樂の趣き全く相反するものあり仮令はひかし世に恐ろしき男女あり數條の生きたる蛇を弄び之れを帯びにし綿襪にし又鉢巻にし甚たしきは之れを口中に入れ半は胃管に下だして又た引き出だす等實とに恐ろしき醜態を演じて道路に錢を乞ふ之れを蛇遣ひと云ふ觀るもの常に黒山の如しと雖とも其の見物人の種類を尋ねるは多くは田舎ものにあらずれば都下の下郎輩に外かならず又見世物に種々見苦るしきもの多き中にも婦人が陰部を露はして跨る所へ客は正面より進み火吹竹を口にして其の醜態を吹くの趣向あり恐極醜極の見世物にして之れに群集する所のものは必ず田舎者にあらざるはなし上流の都人士は之れに近つかざるのみか若し強て蛇遣ひを見物せよと命せられ彼の火吹竹を吹けよと迫られたれば多少の謝金を投じても其の場を通る、ことならん一方は錢を出して見物し一方は謝金を拂ふて之れを辭す嗜好の相反對するものにして畢竟人文の程度を特にするより生したるの事相なりと云ふ

ふべし

人事の變遷は往古より徳川の時代に至るまでも既に著しきものあり然るに我日本は嘉永の開國より次で王政維新以來舊物を一掃して文明開化の新世界を開きたるものとして有形の物無形の事一として變化せざるはなし事物の變化の取りも直さず人心變化の影響にして今までの日本人の氣風は開國前の日本人に異なり然かも其の異なるや源平時代と徳川時代と相異なるが如き些少の變遷にあらせして人心の根底より顛覆したるものなれば尋常一様の觀をなすべからずと雖とも其の變遷の性質に至りては文明進歩の定則に違はず濃厚の劇より淡泊優美に移りたる跡を見るべし明治の戰爭急劇なりと雖とも人の私有を犯かさず敵の降りたるものを殺さず法律一たび改まりて罪の及ぶ所は本人の一身に限り拷問を廢し肉刑を止め無証據の罪人を捕へす罪によりて私産を没入せず顧りみて世間を見渡せば復讐の沙汰なく殉死又は果し合の奇談を聞かず尙得之れよりも廣大なる變化は廢藩の一舉に於て見るべし封建の制度

を廢して全國三百所に行なはれたる君臣の關係を斷ち君既に君にあらざれば臣も亦臣にあらざ既に古風の君臣あらざれば所謂忠義の働きも大に筆法を改めざるべから老滯政廢して四民同權とあるからには門閥も香しから老貴族も貴から老今日となりてハ假令族稱爵位の事を重ざる者あるも唯た抵壁に其の利益を語り僅かに一家私私言たるのみにして其れ事が果して社會進歩のために必要なりとの理由をは敢て公言するを得老如何とされば門閥爵位等の光明ハ唯愚民を照らして耀くのみ苟くも中等以上文明の思想あるもの、眼を以てすれば其の光人も愚民の愚と共に愚にして見るに足らず而して文明の世界は文明の人の直接間接に支配する所されば其の人に向て愚乃利を公言する得はざるも亦た謂れなきにあらざればなり社會を離れて家門に入りて其の趣きは舊時に異なり子に向て子たるを責むれば父も亦父たらざるを得老夫にして夫たらざれば婦に向て婦たるを責むべからず父必せしも嚴ならせして子を愛し母獨り慈ならせして父も亦子を愛し夫婦皆も一体をなして終生一日の如く子女

幼にして團欒相娛比しみ長じて獨立妨げられず滿門和氣乃悠々たる春の海乃如くして復た昔日の家法凛然窮窟ふるものにあらず今の日本文明社會に於ては其の家風漸く此の邊に趣くもの多し男婦女卑の弊風は既に文明のために厭ひ盡くされて天下一人として其の主義を保護するものなし或は私に舊弊風を利して凡俗世界を瞞着し以て快樂を買ふの媒介に用ゆる輩もあらんと雖ども瞞着すべからざるものは文明の慧眼にして如何なる才子も如何なる老練家も敢て一言を發して其乃眼光を遮らんとするも乃なきが如し

以上は我國開國以來人事變遷の大畧にして今日既に此の場合に達し尙今後我後進生の勉強と共に内地雜居等の事行なはれて文明國人に交ることいよく繁多なるに於ては國運の進歩文明の變遷實に想像の外あるべし然るに今人事の實相す斯くの如くなるにも抱はら老時人の氣風を寫し出すと稱する演劇獨り舊套を改め老して古來自家の習慣に安んぜるとは我輩は唯た其の因循無智に驚くの外なし之を例へば新聞

紙が時事を報道して時の輿論を寫すと唱へながら古典を講究して古事の操言を講るが如し文明の世界に誰か斯る陳腐敗紙を續むものあらんや新聞紙にして斯の如くならば今の演劇も封建時代に適應したるものにして其の仕組の陳腐なるは古典乃再演に異ならざる其の濃厚急劇なれば儒教武士の精神を寫し其の姪猥にして厚かましき下郎社會の醜体に彷彿たり文明の人にして誰か之れを見るものあらんや讀者若し此に疑かひあれば試に今の劇場に今の日本政府の裁判所に關することを演し徳川政府初代の人民を蘇生せしめて其見物人たりと想像したらば見物人は如何なる評を下すべきや科人に代言人とは何事を政府も亦態と其の越訴の道を開ひて之れを取り上げたるこそ奇怪なれ政府の威光は地を拂ふて人民と相對し曲事を犯したる者共へ勝手氣儘の次第を許すに異あらざる我板倉周防の守松中伊豆の如きは則ち然らざる氣問裁判の秘密は一人の方寸にありて存し天下萬民皆な其の恩威に服さざるのみかき吾々の娯樂世間を見ざるこそ久し僅かに二三百年の間に世は澆季に移りて演劇の趣向まで

も斯の如し之れを見るも思まはしどて必ず大に不平を唱すことならん如何とならば徳川の初代と明治今日とは人事の實相殊異にし舊事相に慣れたる眼を以て新事相を見れば一事一物一より十に至るまで悉皆我ら意想の外に出で、却つて情を働かすに足らず唯た殺風景の觀をなすの外あるべからざればなり然らば則ち今日漸く西洋の文明主義を養なはれて漸く其の精神の淡泊優美を致し思慮緻密にして心氣劇がしからざる種族の人か今日の劇場に遊び殿様の尊嚴家來其の卑屈を見物し忠臣の忠義奸臣の奸惡を見物し其の計略の粗略にして其乃欺かる、の容易なるを見物し其の戰爭の劇しくして其の勝敗の不思議なるに見物し孝子の孝は身を苦しめて木石の如く烈婦の烈は容易に自害して平氣あるを見物し結局に至りて盜跖は誅に伏して顏淵は長壽を保ち以て目出度當日の幕を終る状見物すれば如何なる評を下すへきや事の顛末不揃にして然かも無味殺伐なるものと小兒の戯に等しと不平を唱と其の状は元和嘉永時代の人か彼の明治裁判所の作りものを見て不興を催せよよりも尙甚だしきことなら

だ不幸にして今の看客の中には尙天保時代の故老を存するが故に封建の殘夢中自か
 ら懷舊の情を催ふして興に入るものもあるべしと雖も文明の後進多數の子女ハ殿
 様の何者にして家來共の何者たるを知らず古代の忠孝貞節の筆法を知らず其の争闘
 の劇しさに驚き其の狼狽の甚だしきを訝かるのみか或は書卸し新狂言を稱して新
 工風したる脚本を演じるものにて其の作者ハ天保時代の筆を以て濃厚に彩色と
 るか故に外面厚かましくして情は却て深からず其の極端に至りては唯田舎者を悦ば
 す足るべしのみにして文明都人士の眼を以てすれば猶は彼の蛇道火吹竹の見世物
 を見ると一般興を催するは扱て置き赤面の汗と苦痛を覺へ一度の見物に懲りくそ
 ることならん左れば演劇は決して空想より生すべしものにあらざ正さに其の時代に
 行なはる、人事の實情に倣ふて始めて能く看客の情を悦ばしむること云ふべし
 ざるの事實なれば封建の時代人事の濃厚急劇ある世に演劇の瓶向も亦濃厚急劇なる
 べく明治の今日人心次第に淡泊優美に趣くに當りてハ又之れに應ずるの手段みかる

べからず況んや日本の文明は今まさに進歩の中に在りて駁々止まざるの最中演劇も
 亦其の時勢に後れを以て速に淡泊優美の新装を著くること緊要なるべきなり

明治十九年九月廿日出版御届
同 年十月十五日刻 成 (定價金四十錢)

大阪府平民

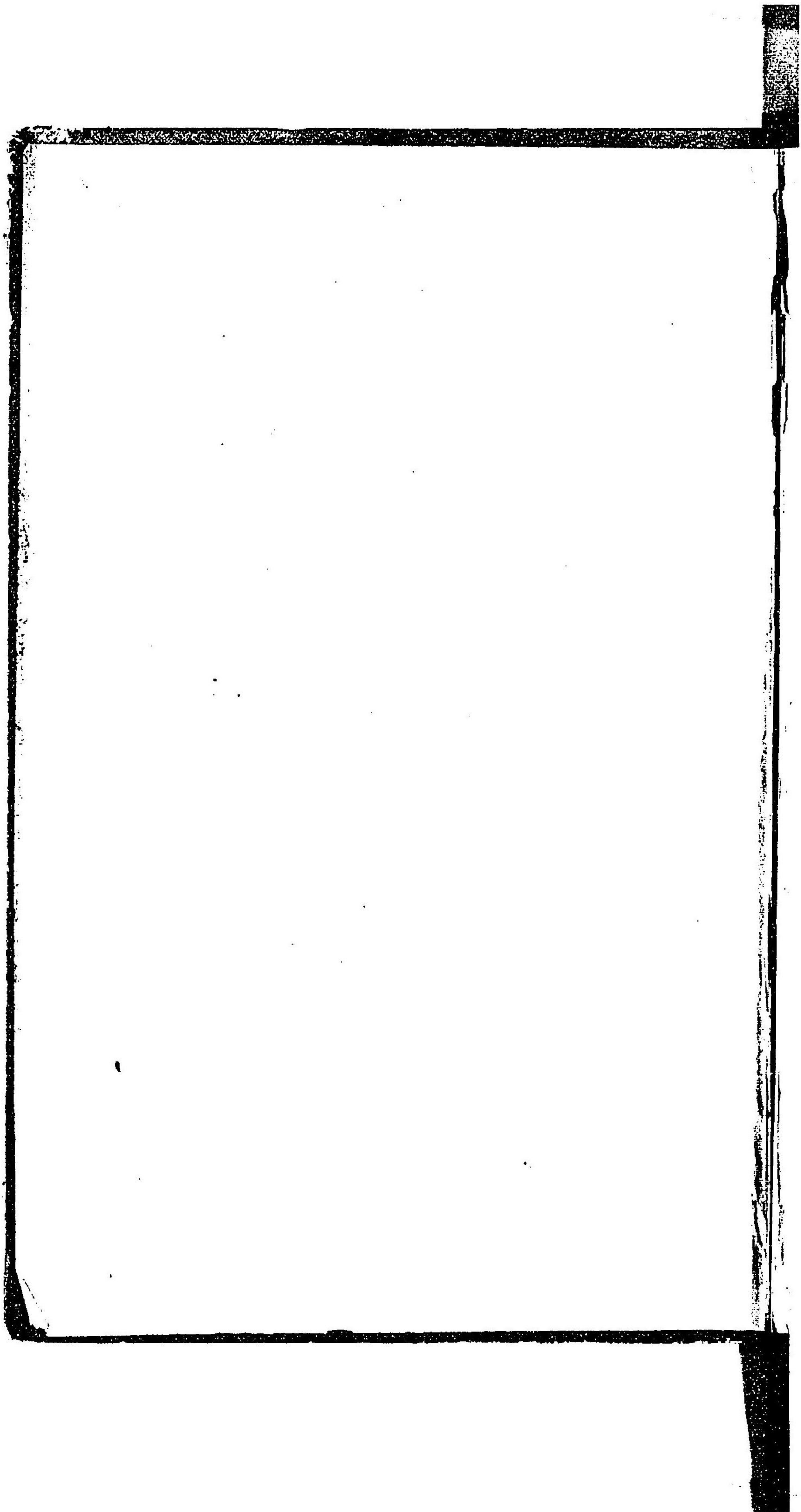
編輯兼出版人

中 村 善 平

南區ノ寶寺町中ノ町卅五番地

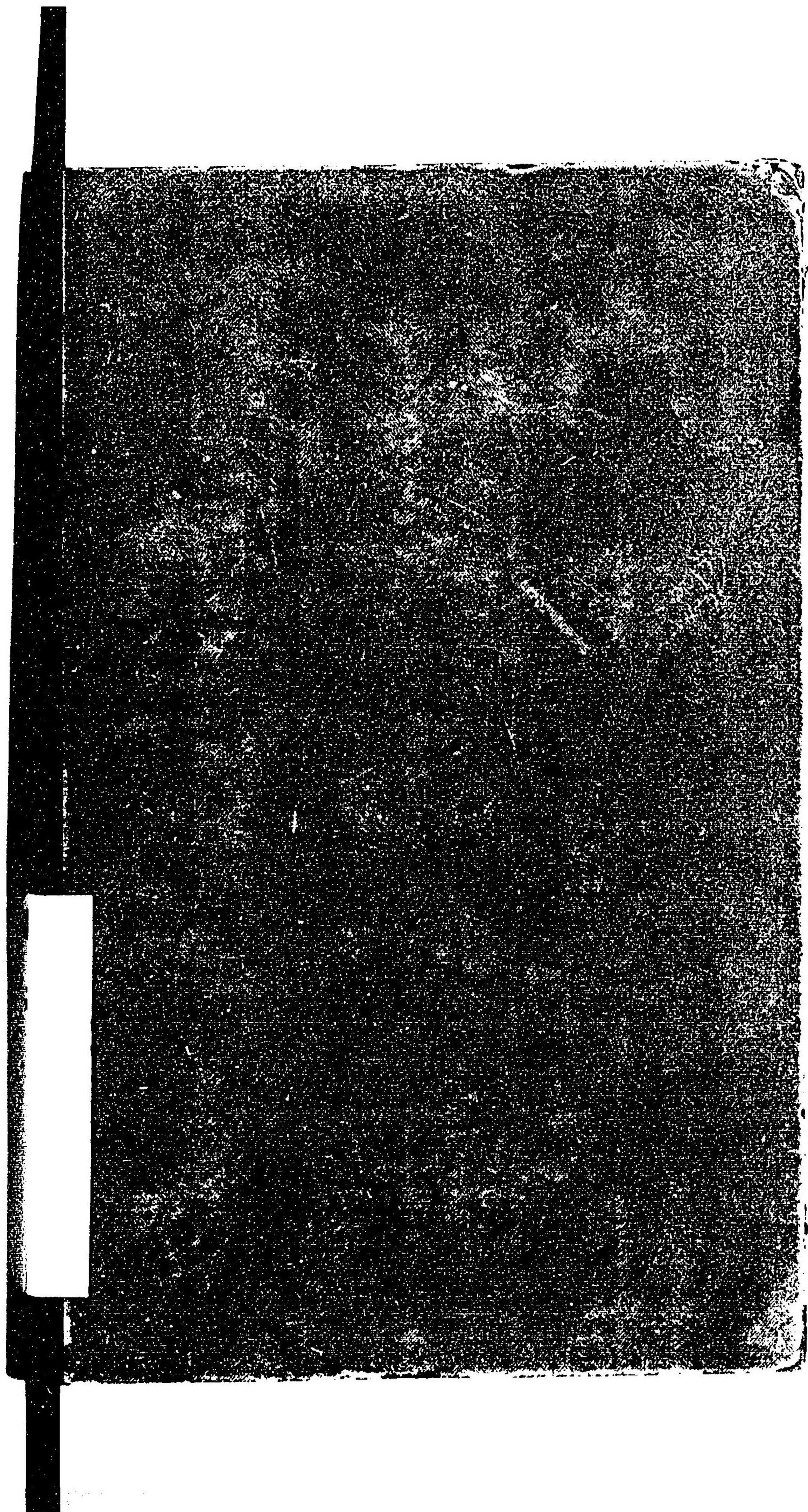
發行所

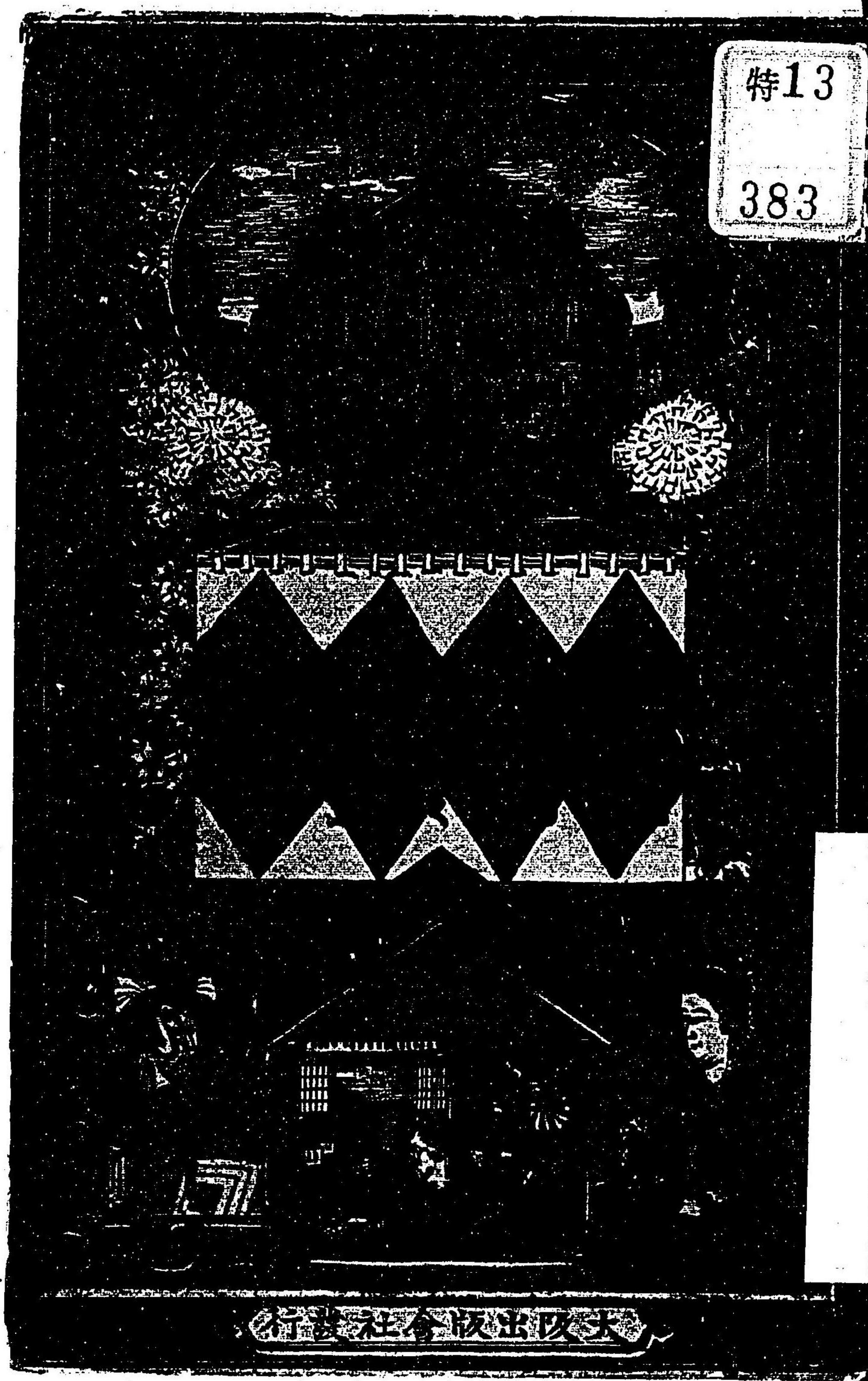
大阪出版會社



.....

•





特13
383

074838-000-3

特13-383

劇場改良法

春の家おぼろ / 著

M19

CEK-0186



大坂出版社